

6月14日 年間第 11 主日

私たちの間にある神の国

マルコによる福音書 4 章 26～34 節

²⁶ また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、²⁷ 夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。²⁸ 土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。²⁹ 実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

³⁰ 更に、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。³¹ それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、³² 蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

³³ イエスは、人々の聞く力に応じて、このように多くのたとえで御言葉を語られた。³⁴ たとえを用いずに語ることはなかったが、御自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された。

他の朗読：エゼキエル 17:22～24 詩編 92:2, 3, 13～16 II コリント 5:6～10

Lectio …読む

「神の国」、あるいはマタイに言わせると「天の国」とは、イエスの教えを聞いて、受け入れようとする人に、イエスが与える新しい霊的な命を意味します。イエスは一般の聴衆にこの新しい生き方を説明するために、たとえ話を使うことを好みます。しかし、彼に従っているより献身的な人には、より詳しくご自分の教えを説明します。

たとえ話とは、聞く人が頭の中で想像し、イメージを膨らませるための短い物語です。イエスが、み国はどんなものなのか、また、み国に住む人はどんな生き方をすべきか、ということの説明するために、日常生活のとても素朴な場面と出来事を取り上げます。

最初のたとえ話は、新しい霊的な命と成長をもたらすため、多くの場合は見えない形で神がどのように働いてくださるか、ということを表しています。話は種蒔きから始まります。これは神のこぼしの宣教を意味しています。神のこぼしが告げられるとき、個人の生活や社会の中に神の国が始まります。しかし、その成長は神の力によるのです。

からし種のたとえはとても単純です。ごく小さい種は蒔かれると成長し、ついに非常に大きな木になります。ここでの大きさの対照的な違いは重要です。ごく小さくて、取るに足りないような種は、高くて栄光に満ちている存在になります。からし種は教会や、私やあなたのような個々のキリスト者の霊的な命も意味していると言えるでしょう。

Meditatio …黙想する

あなたが変わるきっかけとなった神のこぼしを、あなたに蒔いた人が誰だったか覚えていますか。最初の段階から、あなたの霊的な命が成長したり、深くなったりしたのでしょうか。どういう変化があったのか説明してみてください。この成長を助けるために、あなたは何が出来ると思いますか。

他の人の命に神のこぼしを蒔いたことがありますか。例えば、イエスを信じていない人に、あなたの信仰について説明したことはありますか。あるいは、聖書のある部分を挙げて仲間のキリスト者を助けた、ということもそうかもしれません。どうやってあなたも種を蒔くことができるのか、聖霊の

導きを願いましょう。

Oratio …祈る

詩編 92 編の中で詩編作者は植えられた木とその種について歌います。今週は毎日、詩編作者と共に朝は神の愛を、夜は神の真理をほめたたえましょう。13～16 節に励まされて、キリスト者としての生活が、力強く実り豊かなものとなるために、どのようにしたらより深く神に根ざすことができるかを、神に聞いてみましょう。

Contemplatio …観想する

エゼキエル 17 章 22～24 節の中で、神の民とその霊的な命は、高い山の上に植えられた木にたとえられます。木を植えて養い、枯らしたり、繁らせたりするのは神ご自身です。今日の福音と平行しているところを探してみてください。

Ⅱコリント 5 章 6～10 節は、私たちが「目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいる」(7 節)、と思い起こさせてくれます。そして何よりも私たちの望みは、神に喜ばれることであるべきです。